

第16号

国立市富士見台1-1-201

村田 亘 75-2020

印刷

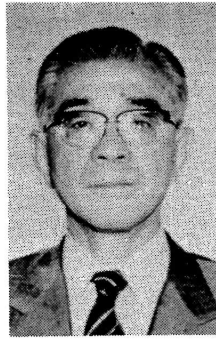
真美巧芸 37-2536

国立白門会

リフレッシュのてだて

広報部長

能味寿哉



い訳ではありません。若年層の積極的参加と在学生との交流であります」と述べられて

村田会長が率いる国立白門会は、創立以来着実な営みを続けてきた。会長が常日頃言われる、生みの親である故池田由太郎先生のお力、草創期における役員方の献身的な活躍によって歩みだしたこの道程は、年々発展のあと著しく、早くも明年は、十周年の喜びを迎えることになった。誠に

私は今の時点で、この辺から私なりに、わが会のリフレッシュの有効な手段?を考えてみたい。まず若年会員の参加を求めるには、会自体が魅力ある活動体でなければならぬ。確かに先年来のめざましい会の運営は、市民の各層への働きかけとなり、インチャメートな感情をもって接してきてもらえているが、若年白門人への対応としては、別の視点があつてしかるべきだろう。例えば、現在の「アレコレ考える会」を拡大した母校教授陣による税制、地価、社会福祉をテーマとした時局講

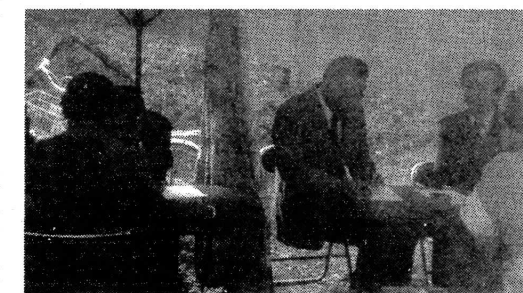


演会——恋愛問題の座談会も可——の随時開催、あるいは中大音研を招いて市民音楽祭——ジャズバンドも可——あるいは中大俳句部・囲碁部・詩吟部との合同大会などの呼びかけも、若い人には興味を持たれようし、むしろ若手会員の起用によって彼らの運営に委すことこそ適当なのではあるまいか。もちろん経費の問題も出てこようが、自助努力の上に母校の何分のバックアップも要請することとして、経費面から退歩する事態だけは避けたいと思つている。次は、在学生との交流である。当面組織部がその氏名、人員の掌握にあたつて、それらの大学生の望むところが奈辺にありや、難しい新人類意識もこの際勉強してみるのがいいでしょう。幸い、この春の総会で、役員に四人の新しい顔触れが決まった。これなど、村田会長の期待される方向が見えるよう、わが会の活性化のため正解であつた。終わりに一言。私は中大学員会が明年百周年を迎えるに

第一八回 市民まつりに参加

今年度は、国立市政二十周年という記念すべき年です。夢ひろばWith遊87というテーマで、大学通りに舞台をつくり大コーラスの集いをメイン企画としています。白門会も例年通り法律・税務・不動産の無料相談コーナーと、皆様のご提出の品でバザーを行ないます。売上金は福祉団体への寄付と、会の運営資金の一部に当てさせて頂

際して「ホワイト・ルネサンス」を提唱してみた。それは従来とかく言われた「法科の中央」のイメージ・チェンジを狙つたもので、試案は、三日間、赤坂のサントリー大ホールを借り切り、中大音研の総力発表(早慶の友情出演も可)と併せて、文壇(小説、俳句も含む)芸術界の有名人名による講演を企画している。白門人のほか一般にも開放し、前売券で発売。入場者へはテレホンカード(中大キャンパスと全日本優勝のポルト部の雄姿を入れる)を贈呈、広くテレビを通じて全国的という内容である。「法科の中央」からのイメチェンに、一石投じたい私の「ホワイト・ルネサンス」：白門の文芸復興：果たしておわかり頂けるだろうか!?

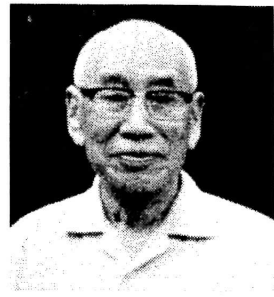


第17回 市民まつり 昭61年11月

- きます。つきましては、バザー出品物のご提供をお願いします。多少にかかわらずお電話いたたければお預かりに向います。
- 一、市民まつり日時 昭和六十二年十一月一日(日) 午前十一時開会
- 一、場所 大学通り、一橋大学南門先(谷保駅側)緑地帯
- 一、無料相談の先生方 弁護士 村上寿夫 溝口敬人 穴戸勇之 高橋雅章 不動産 久保田利雄 (敬称略)
- 一、バザー提供品の連絡先 久保田 六五―二二四四 風間 七六―二九五―

国立白門会の恩人

池田由太郎先生を偲ぶ



故 池田由太郎氏

私が池田由太郎先生に初めてお会いしたのは、昭和五十二年の晩秋、丁度十年前である。

日本橋三越本店前の池田ビルに法律事務所を開いておられた池田先生は、週の大半を池田ビルで起居せられ、たまに日曜日なので、国立駅南口のご自宅に帰っておられたのである。

お訪ねしてご挨拶が済むと、早速、応接間に通され、「中央大学卒業生の会を国立につくりたい」と用件を切り出したところ、笑みを浮かべ、「中央大学は私を育ててくれた母校で、どんな協力をも惜しまない」と言われた時のことは、今でも頭に深く刻み込まれている。これが同門の誼というものであるか。

国立市富士見通りの「国立会館二階ホール」と控室は自由に使って下さい」など、いろ

国立支部長

村田 亘

いと力を貸していただくことになった。

昭和五十二年の晩秋、たまに、駅前のレストランで、閑喜さん達数人が集まって話している中に、中央大学という言葉がちよいちよい出てくるので同窓だということが判り、私も中央出身だということ、「先輩、国立で白門会をつくって下さい」と声をかけられ、つい「やってみよう」と安請け合いましたのが因果、何から手を付けてよいか見当つかず、頭を悩ましていたとき、関さんが「国立で活躍しておられる弁護士池田由太郎先生に相談されたら」というので、最初は疑心暗鬼で訪れたのである。

池田先生の話を聞いて勇気百倍、私は駿河台の学員会本部を訪ね、当時の阿部総務課長（現事務局長）や大月係長の協力を得て、二〇種位の厚みがある学員名簿を借用し、中を見て驚いた。谷保村、谷保町時代の住所の人が大半を占めていた。アルバイトを頼んで、名簿

に掲載されている全員の名前を抽出し、更にその中から村町時代の人を拾い出し、国立市役所勤務の五十嵐力さん（後・建設部長）達の援助を仰ぎ、以前の住所が現在の国立市の何処になっているかを調べてもらい、約七〇〇人に手紙を出し、届いた人が三五〇人、返事をくれた人が三〇〇人、これが学員探しの出発点であった。

昭和五十三年三月中旬に何とかして会合を持ちたいと、寢食を忘れて飛び廻り、日本橋の池田法律事務所とご自宅とを度々訪ねては池田先生と相談し、激励の言葉をいただき、勇気づけられ、遂に五十三年三月、三〇数名の学員が国立会館に集まって国立白門会設立準備会を持ち、同年五月二十一日に、同じ国立会館で創立総会を開催する運びになった。

池田先生は石川県のご出身で、昭和五年、中央大学卒業後、司法試験に合格して弁護士を開業、戦時中の昭和十九年、谷保町に疎開された。

既に一橋大学は在ったが、国立一帯は雑木林で、雨が降ると大学通りはぬかるみで、兎が走り廻り、南武線から中央線までの間に、民家は数軒しかなかった。

以前、池田先生は弁護士の仕事と併せ、国立町会議長を勤めておられた。

当時、立川に米軍が進駐して基地があり、国立町に米国兵の歓楽街とオンリーの住宅を造る話が進んでおり、国立町は賛否両論に分れ大騒ぎとなった。

国立町会議長として町民の良識を喚起し、日本の最初の文教地区制定に尽力されたのは、池田由太郎先生であった。池田由太郎という有力な後援者があったからこそ、思ったより早く、国立白門会が誕生したのである。

国立白門会は中央大学国立支部として、日本で最も活動している地域支部の一つに数

あれこれ考える会

今回は主に自転車について考えてみたいと思います。

サイクリングや、ちよっと遠くへ買い物に出かける時、通勤・通学などレクリエーションや生活に欠かすことの出ない乗物といえるでしょう。他方、駅前やスーパーの前など溢れ出そうなる駐輪で、交通障害の原因ともなっています。国立駅前もかつては、全国でワースト・ワンの乱雑ぶりでした。大学通りの緑地帯に駐輪場を整備したり、JR線敷地内に駐輪場を作るなどしてワースト・ワンは返上しました。また、最近ある

えられていますが、池田先生は国立白門会の生みの親と言っても過言ではない。中央大学は昨年、創立一〇〇周年を迎えたが、国立白門会顧問であった池田先生は、四年前から病床に伏しておられ、記念式典にも参加できず、今年七月二十三日、八十四歳の生涯を終えられた。返す返すも残念の極みである。国立白門会が母校と共に益々発展し、地域社会に貢献することこそ、池田由太郎先生のご恩に報いる所以であると肝に銘じている。

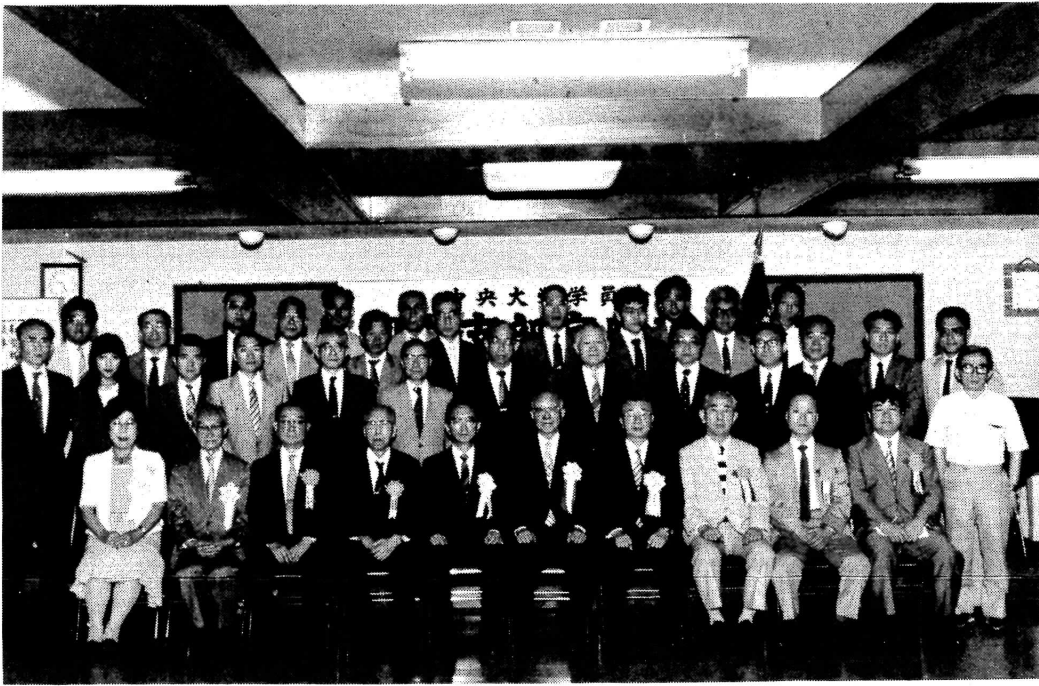
市では違法駐輪の撤去費用を徴収することに決めました。これは他の事にもいえると思いますが、使い手次第で正邪是非となります。この自転車について、問題を喚起し、意見の交換をしたいと思います。

一、日時 十一月七日（土）午後一時三十分
一、場所 ダイパ・プレス集会所

- 事業部活動予定
- 市民まつり参加 十一月一日（日）
- ゴルフ・コンペ 十一月十二日（木）
- 新年会 一月二十三日（土）
- あれこれ考える会 十一月七日（土）

第十回 定例総会

広報部 平本 聖子



◁ 第10回中央大学学員会国立支部総会 ▷

六月十四日(日)、第十回国立支部定時総会が、国立駅前「商協ビル」で開催されました。時折りの小雨にもかかわらず、土屋六郎常任理事を初め多数の来賓の方々をお迎えして、盛大な会となりました。午後三時、大学本部からおいでくださった浅野広報課長のご挨拶の後、最近完成した母校の映画『展げゆく中央大学』を、製作者である東映の岡本監督の解説で、三十分鑑賞しました。

中央大学が明治十八年十八名の新進法律家によって神田錦町に創設されてから後、駿河台に、さらに多摩に移転し、今日の隆盛に至るまでの歴史が克明に描かれ母校の卒業生であることの誇りをしみじみと思い、深い感銘を受けました。

小休止の後、風間俊範幹事の司会で定時総会の議事に入り、井上定男副支部長が開会の辞を述べ、規約に従い村田亘支部長が議長となりました。村田亘支部長は「明年、学員会創立百周年を迎えるにあたって、学員会では、各種の記念事業を計画しているの意見」を期待したい。また、今後の国立支部の発展と母校の興隆を心から祈念している」と挨拶されました。続いて土屋六郎常任理事が母校の現状を報告され、三多摩地区支部

連絡協議会を代表して、関孝八王子支部長から心暖まる激励の祝辞をいただきました。議案の審議に入り、丸本大幹事長から六十一年度活動報告、堀田勲会計の決算報告及び宍戸勇之会計監査の監査報告が一括上程、次いで六十二年度活動方針と予算案が上程され、満場一致の拍手で承認されました。また、役員改選について村田亘支部長から

「明年は母校学員会創立百周年と国立白門会創立十周年を迎える節目の年となるので、現役員は全員留任。新役員に、伊藤陽司氏、前田信幸氏、皆川友彦氏、高橋雅幸氏を迎えたい」との提案があり、全員賛同のうちに、新執行部の力強いスタートが祝福されました。

最後に、当支部顧問谷清氏が国立市長に、役員井上正博氏が国立市議に。副支部長井上定男氏夫人スズ氏が国立市議に当選されたと報告があり、村田亘支部長がお祝いの言葉を述べ、福谷実副支部長の閉会の辞をもって議事を終了しました。

一同記念撮影の後、小林治厚生副部長の司会で懇親会に移りました。山村鶴音事業部長の挨拶に続き、顧問・名誉教授中西旭先生の音頭で乾杯業務でお忙しい中駆けつけて下さった阿部輝男事務局長の

ご挨拶の後、五十嵐栄治立川支部長、内田清日野支部長、佐藤満町田支部長代理から祝辞をいただきました。市橋千鶴子顧問から「白門会ニュース」に掲載された「ふたたびの北京行」についてのエピソードが面白く語られ、校歌が軽やかに流れる会場で、宴は和やかに進み、同門ならではの家庭的な雰囲気の中で互いに杯を交わし、時の経つのを忘れ、名残りは尽きないままに校歌を斉唱し、大串源太郎氏のエールで幕を閉じました。

役員改選

総会において、支部規約第九条により役員改選が行なわれたが、満場一致で再任されました。

- 支部長 村田 亘
- 副支部長 井上定男
- 荒木繁幸
- 福谷 実
- 幹事長 丸本 大

新たに次の四名が新役員に選任されました。これからの活躍が期待されます。

△組織部▽

伊藤陽司(34年商卒)
(株)ぎょうせい勤務

△厚生部▽

高橋雅幸(52年商卒)

高橋雅幸税務事務所

△事業部▽

前田信幸(36年経卒)

(株)タクマ勤務

皆川友彦(38年商卒)



平本聖子

蒸し暑かった残暑が遠のき、急の秋の訪れを感じさせた九月三日(木)、第一回国立白門会ゴルフコンペが、多摩カントリークラブで開催されました。時折小雨がぱらついたものの風はなく、まずまずのゴルフ日和でした。

九時二〇分のスタートで、女性三名を含む十二名が三組になり、アウトコースからインコースへ回りました。キャリア三〇年のベテランからグリーンは初めての初心者まで、腕前は様々ですが、皆さん仕事を放れた開放感と、同門である親近感とで、「ほんとうに楽しくプレイが出来た」と、口々に話していました。ゴルフを終えた後の懇親パーティーでの語らいが又、楽しく自慢話や失敗談、スコアの満足度やアドバイスなど話は尽きず、ゴルフを通じて同門の絆をより深いものとしていました。上位の成績は次の通りです。

一位	高橋雅幸	46	45	91	19	72
二位	中島順敬	43	46	89	15	74
三位	皆川友彦	52	54	106	31	75
	伊藤陽司	40	39	79	4	75

O I G H N

一位の高橋雅幸氏は、コンペの幹事でもあり第一回ということでいろいろとしたいへんなご苦労だったと思います。それも優勝の喜びで消えてしまわれたのではないでしょう。二位の中島順敬氏は、国立市役所内でも一、二を争う腕前と聞いていましたが、噂に違わぬ活躍でした。三位の皆川友彦氏は、ゴルフクイーンとなられたゲスト参加の奥様と共に、たいへん健闘されました。ベストグロス賞の伊藤陽司氏は、スコア79という立派な成績でありながら、新ペリア方式のハンディキャップ算出のため優勝を逸して残念でした。又、今回クラブを握ったのは打放しの練習場で一度だけというショウシン者は、やさしい先輩方に見守られてグブアップすることなく完歩し、輝かしいブルービームーカーとなりました。



当日、村田亘支部長より寄付金を賜り、村田支部長杯としてカップの購入を予定しており、次回からのコンペに花を添えることでしょう。今後、国立白門会ゴルフコンペは厚生部の事業活動の一

(キャンパス便り) 世界に拡げよう 中大の輪

今日、大学の国際化の流れの中で、本学は外国の大学・教育研究機関との交流を積極的に推進している。学部学生レベルでの留学は商学部が一番早く、フランスのパリ高等商科大学との間に相互交換協定を締結し、昭和五十九年四月に、第一号留学生在が誕生し、以来二、三名程度の学生が相互に交流している。経済学部でも、今年度初めて、アメリカのテネシー州に

あるメアリヴィル大学とイリノイ、ベネディクティン大学と協定を結び、五名の学生が留学した。また研究者レベルでの国際的な学問交流も活発で、諸外国の多数の研究者との間で共同研究、公開講演会、特別講義などが盛んである。このような国際化時代に向けて、実用英会話はこれからの職業人にとって必要な条件となった。そこで本学も本年

中大オリジナル テレホンカード 好評で追加発売

創立百周年を記念して発売された記念テレホンカードは好評裡に完売されたが、その後、学内外からスクール・イメージを生かしたテレホンカードの発売の要望がすくなく、部として、年間四回を目標に開催を予定しています。ゴルフを趣味としている方はもちろん、これからグリーンに出てみようかと思っている方も同門の温かい雰囲気の中で楽しんでみませんか?奮ってのご参加を期待しています。

このたび、本学の事業部から中大のオリジナル・テレホンカードが発売された。デザインは明日の中大の発展を象徴したもの。とりあえず種類は五十度数券一種類だが好評ならばデザインの追加も考えるところ。オリジナル・カードのため、一枚八百円だが希望者はカード代金一枚八百円(現金または小為替)に送料六十円切手(カード五枚以内)を貼って宛名明記の返信用封筒(定形)同封で注文すれば購入できる。送料は二十枚まで七十円、それ以上は百七十円。

尚、第二回コンペは、11月12日(木)神奈川カントリークラブにて開催する予定です。ご都合のつく方は幹事までご連絡下さい。連絡先 高橋雅幸 ○四二五(72)五七九五

(申込先) 〒192-03 八王子市東中野七四二の一 中央大学事業部 (☎) 〇四二六-七四一-二三五一

阿久高象言

さわやかな季節となりました。この時期は自然に親しむのもよし、食べ物も美味しい秋の夜長、読書もよし、TVも二十四時間放送が復活。テレビはゴールデン・タイムより深夜放送の方が面白いとか。確かにTV欄をみると各局とも映画を二本位つつ放映している。しかし仲間見られないのでビデオとなるが、これも見る時間がない。その時間の責か読書も活字離れで、名作物を劇画仕立てにしたものが人気があるとか。称して読画だそう。ところで、ドストエフスキの作品を劇画にしたらどうなることやら。例えば「白痴」などは……

度から社会に開く文化教育活動を行う機関として、多摩キャンパスに中央大学クレセント・アカデミーを発足させたアカデミーは英会話だけでなく、パソコン、ワープロ教室等も開講しており、在学生はもちろんのこと、OB、一般の人にも受講できるとのことである。今後学生も国際化志向は一段と高まることにつれて、中大生の活躍の舞台も世界へと拡がることであろう。 小林 治記